

公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置
の適正化に関する検討会議（第10回）

提出資料

長崎県における少人数学級及び少人数指導
の取組状況について

平成24年4月3日

長崎県教育委員会

1 少人数学級編制の基準（平成18年度～）

児童生徒一人ひとりに目が行き届く教育を推進し、子どもたちが抱える様々な問題にきめ細かく対応するため、特定の学年で少人数学級編制を実施する。

校種	学年	基準	ねらい
小学校	1年	30人	幼・保とほぼ同規模で小学校に接続
	2年	35	段階的にやや大きな規模の学級に編制
	3年	40	切磋琢磨する中で学力と社会性を育成
	4年	40	
	5年	40	
	6年	35	思春期前期や中学校生活に対応
中学校	1年	35	切磋琢磨する中で学力と社会性を育成
	2年	40	
	3年	40	

2 本県の学級編制の実態（平成23年5月）

(1) 1学級当たりの児童生徒数（特別支援学級除く。）

・小学校 24.1人 ・中学校 30.4人

(2) 30（35）人以下学級の割合

・小学校 75.5（92.4）% ・中学校 43.1（77.0）%

(3) 少人数学級及び少人数指導の状況

校種	学校数	少人数編制	少人数指導
小学校	360	87（24.2%）	162（45%）
	都市部 170（47.2%）	61（70.1%）	110（67.9%）
	しま部 77（21.4%）	5（5.7%）	13（8.0%）
中学校	178	48（27.0%）	113（63.5%）
	都市部 91（51.1%）	38（79.2%）	60（53.1%）
	しま部 37（20.8%）	2（4.2%）	17（15.0%）

都市部……長崎市・佐世保市・諫早市・大村市・西彼

しま部……五島市・対馬市・壱岐市・新上五島町

少人数編制は、小中共に25%程度で都市部に70～80%集中。

少人数編制は、しま部の学校では小・中共に1割に満たない。

少人数指導は、学級の規模が大きいことから中学校の方が実施校が多い。

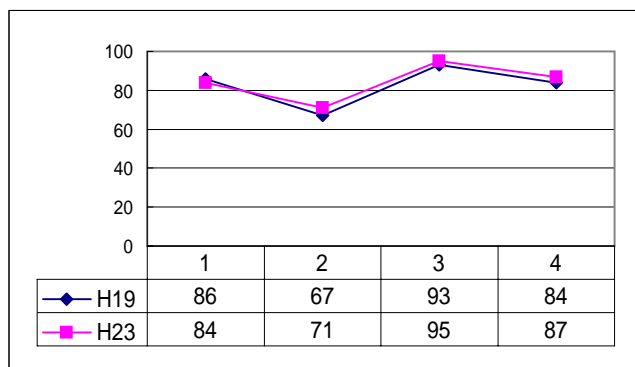
少人数指導は、小学校では都市部に集中し、中学校ではしま部でも一定規模の学校で実施。

3 少人数学級編制の効果

平成23年度少人数学級編制研究指定校 135校

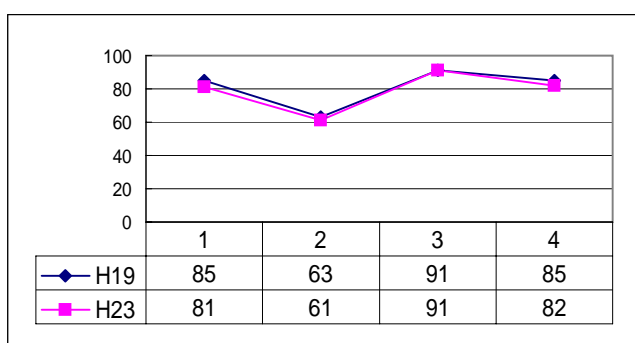
(1) 小学校第1学年児童

数値は肯定的評価の%。以下同じ。



- 1 授業への集中
- 2 発言等の機会
- 3 学級の人間関係
- 4 きめ細かな指導

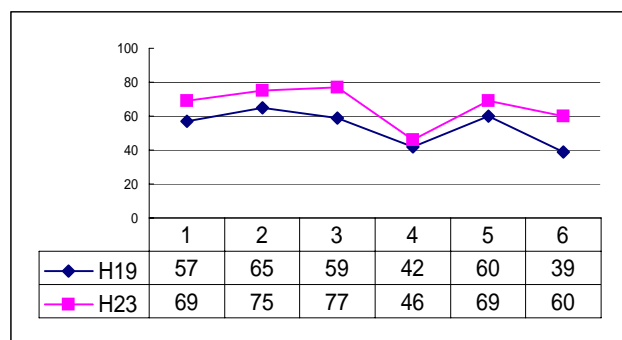
(2) 小学校第2学年児童



- 1 授業への集中
- 2 発言等の機会
- 3 学級の人間関係
- 4 きめ細かな指導

小学校低学年においては、導入当初からいずれの評価項目も一定の高い水準が維持されており、少人数学級の効果は高い。

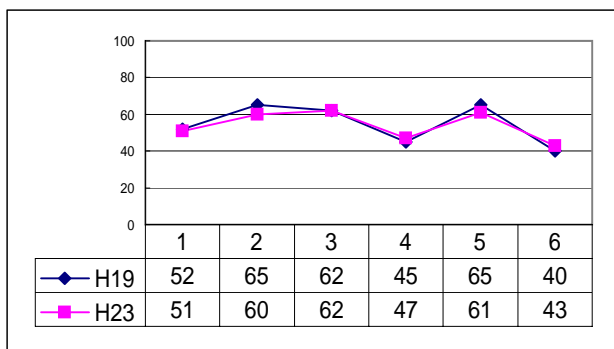
(3) 小学校第6学年児童



- 1 授業の理解
- 2 発言等の機会
- 3 先生の直接指導
- 4 人間関係
- 5 落ち着いた学校生活
- 6 先生の気づきや対応

小学校第6学年においては、いずれの評価項目も徐々に効果が高まっている。学級担任とのかかわりが強く、少人数学級に適した学習指導や生徒指導が効果をあげているものと考えられる。

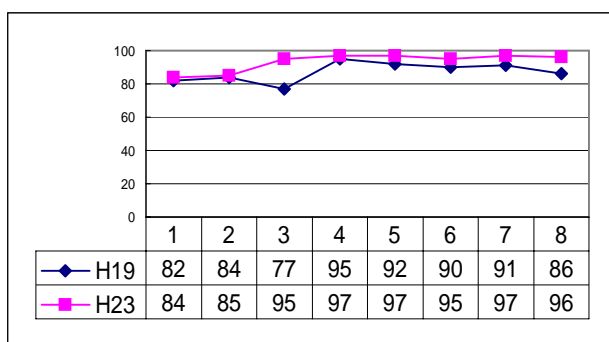
(4) 中学校第1学年生徒



- 1 授業の理解
- 2 発言等の機会
- 3 先生の直接指導
- 4 人間関係
- 5 落ち着いた学校生活
- 6 先生の気づきや対応

中学校第1学年では、いずれの評価項目も横ばい気味である。少人数学級であっても中学校生活への適応に課題があることがわかる。

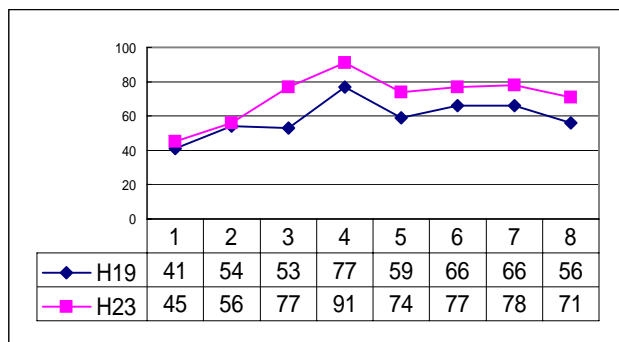
(5) 小学校第1学年の保護者



- 1 授業の理解
- 2 発言等の機会
- 3 不登校やいじめ
- 4 落ち着いた学校生活
- 5 先生の理解や指導
- 6 先生の気づきや対応
- 7 先生との信頼関係
- 8 学校と家庭との連携

小学校の保護者については、少人数学級の定着・普及と共に、その効果についても評価が高まっている。少人数学級を生かした学校の多様な手だてが奏功していると考えられる。

(6) 中学校第1学年の保護者



- 1 授業の理解
- 2 発言等の機会
- 3 不登校やいじめ
- 4 落ち着いた学校生活
- 5 先生の理解や指導
- 6 先生の気づきや対応
- 7 先生との信頼関係
- 8 学校と家庭との連携

中学校の保護者については、少人数学級の効果について評価が高まっているが、生徒の評価との間にギャップが見られる。

(7) 教職員

少人数学級のねらいに対する評価

校種	学年	期待する児童生状態	評価
小学校	1年	小学校生活への円滑な適応	3.9
	2年	学習・生活習慣の定着と情緒の安定	3.7
	6年	不安やストレスへ等の解消	3.6
中学校	1年	中学校生活への円滑な適応	3.4

4 ; とてもそう思う 3 ; そう思う 2 ; あまり思わない 1 ; まったく思わない

少人数学級に係る上位の評価項目

- 基本的な学習態度が身についた
- 児童生徒の発言や活動の機会が増えた
- 個別の実態把握や指導が充実した
- 落ち着いた学校生活を送っている
- 一人ひとりに対する支援が充実した

教職員については、「学習指導」「生徒指導」のいずれの調査項目も平均 3.1 以上の高い評価となっている。一人ひとりへのきめ細かい目配りと指導・支援、また保護者との緊密な連携が学習・生活両面の教育効果につながっていると考えられる。

4 少人数指導の効果

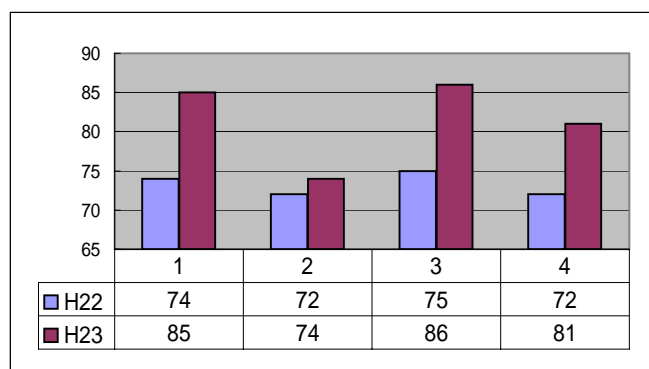
平成23年度加配活用状況調査

本県では、毎年度、少人数指導加配等を配置した学校に対し、「各種加配の効果と課題」「児童生徒、保護者教員の意識等」「加配活用状況の情報公開の取組」等について、各学校の検証結果を踏まえた報告を求めている。

(1) 小学校における顕著な効果の事例

少人数指導の導入によって効果が現れた事例

A 小学校 第2学年 算数の観点別到達率 (%)

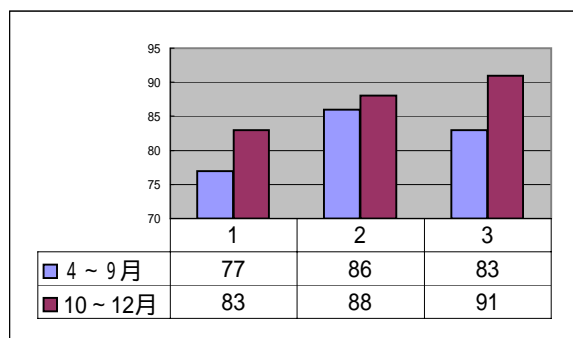


- 1 関心・意欲・態度
- 2 数学的な考え方
- 3 技能
- 4 知識・理解

H22 導入前
H23 導入後

少人数指導によって当年度内に効果が現れた事例

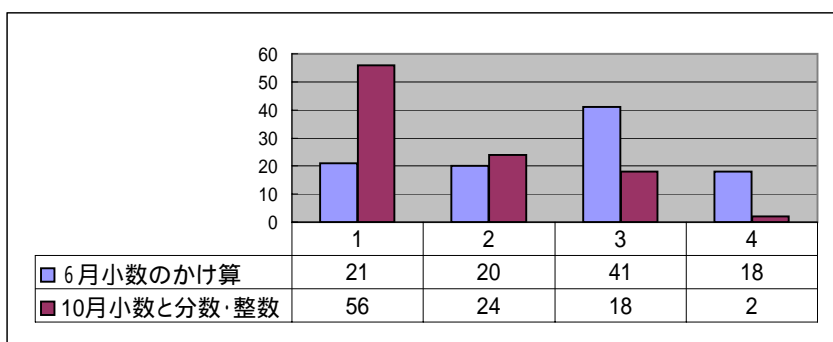
B 小学校 第3学年 算数の観点別到達率 (%)



- 1 数学的な考え方
- 2 技能
- 3 知識・理解

低学力の層の底上げに効果があった事例

C 小学校 第5学年 算数(小数分野)の度数分布 (%)

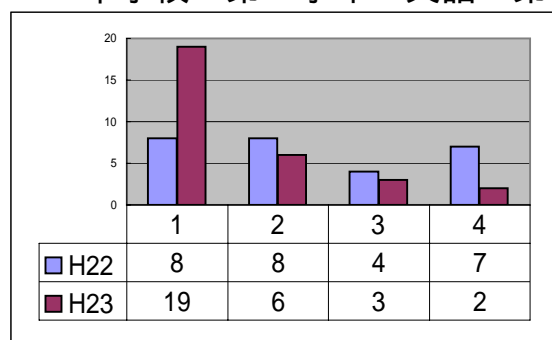


- 1 90～100点
- 2 80～89
- 3 60～79
- 4 0～59

(2) 中学校における顕著な効果の事例

少人数指導の導入によって効果が現れた事例

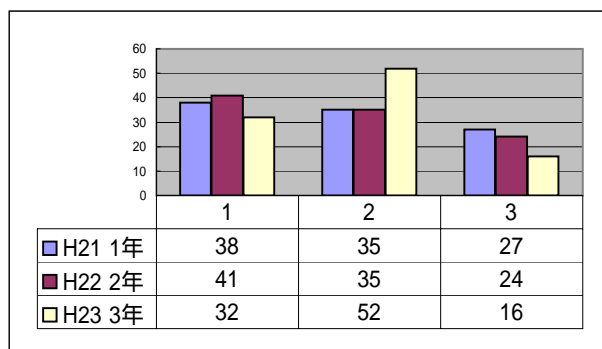
A 中学校 第1学年 英語 第1学期期末テストの度数分布(人)



- 1 80～100点
- 2 60～79
- 3 40～59
- 4 0～39

継続的な少人数指導により効果が現れた事例

B中学校 第3学年 数学 観点「関心・意欲・態度」の割合(%)



- 1 十分満足できる
- 2 おおむね満足できる
- 3 努力を要する

(3) まとめ

少人数指導を年間計画に位置づけ、子どもの実態や指導内容等に即してT Tやグループ別指導及び習熟度別指導を弾力的に取り入れている。

少人数指導を基本として、支援を要する児童生徒への個別指導や理解の早い児童生徒に対する発展学習等、当面の課題を明確にして取り組んでいる。

少人数指導は、低学力の層の底上げやいわゆる学力の二極化の解消に効果がある。特に、知識・理解にかかわる指導で効果が顕著である。

少人数指導においては、学習集団の少人数化だけでなく、学習形態の工夫、教師の役割分担、丁寧な家庭学習への支援、放課後等の学習支援等が併せて実施され、相乗的な効果をあげている。

少人数指導の効果としては、特に知識・技能の習得と学習意欲の高まりに相関性が見られる。